

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
28	川崎市立下平間小学校	勝俣久美子

学校教育目標	今年度の重点目標
学び合い 高め合い みんなでよくなる下平間	1 居心地のよいクラス 2 認め合う、高め合う姿を大切にしたクラス 3 学び合う時間を大切に授業 4 健康な心と体になるための意識向上 5 教育活動の様子が伝わる情報発信

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 居心地がよく、子どもの居場所となる「学級づくり」	(1)人権尊重教育の充実・いじめを許さない心の教育 (2)認め合い、学び合い、高め合いを意識した学級づくり、学年づくり (3)特別なニーズに対応する支援教育の研修・実践および教育相談の充実	・「あなたは学校に自分の居場所があると感じていますか」の問いに、児童・保護者ともに90%以上が肯定的な回答をした。 ・学年ごとに学習発表会を設けるなど、学級での存在意義、学年での存在意義を意識した活動体制を構築し、児童に達成感や充実感を味わわせることができた。 ・合理的配慮が必要な児童、不登校児童理解のための研修など、教職員の意識改革を図った。 ・不登校や不登校傾向の児童が複数おり、外部機関との連携や保護者面談等を通して支援した。別室登校や時間限定登校など柔軟に対応していく必要がある。 ・いじめ防止標語コンクールを6月に実施したが、その後の活用場面が少なかった。	・引き続き、教職員の人権、言語環境等への問題意識を日常的にもち、不適切な指導・かかわりを含む体罰防止、人権尊重教育、合理的配慮に関する研修を実施する。 ・日常的な児童支援や学校生活アンケートなどを活用し、いじめ、不登校など児童の困り感に柔軟に対応できるように、組織の体制を適宜振り返り、よりの確に対応できるようにしていく。 ・家庭、学年、管理職、コーディネーター、各種相談機関等とが連携できるように、合理的配慮や児童の困り感について共通認識し、児童が安心して登校できる物的・人的環境を整えていく。
2 共生・共育を基盤に置いた「優しさのある関わり方」の育成	(1)共生・共育プログラムに基づく、自己受容を促す人間関係づくり (2)多様性を尊重し、共生・協働の精神の育成	・「あなたはどの友達にも仲良くし、困っているときは助けたり、優しい言葉をかけたりしていますか」の問いに、児童・保護者ともに90%以上が肯定的な回答をした。 ・共生*共育プログラムを児童の実態に合わせて実施した。担任はその後の効果測定を活用しながら豊かな人間関係づくりを意識し、児童はお互いに助け合おうとする気持ちが育ってきた。 ・たてわり活動を通して、異学年との仲間とも助け合い、お互いを受け入れていく態度を培った。 ・高学年はリーダーを意識し、「みんなでよくなる」ための活動の工夫をした。	・学級、学年等、それぞれの集団の中で学び合いによりお互いが成長していけるような活動を進める。そのために、校内研究・各種研修とも連携していく。 ・共生*共育プログラム、SOS出し方・受け止め方教育を学級の状態に応じて実施できるよう、効果測定を有効的に活用する。 ・たてわり活動をもとに、低学年・高学年で活動できることを考え、それぞれの役割を明確にし協働していく姿勢を培う。
3 友達に伝え、友達から学び、友達とかかわる時間を意識した授業作り	(1)新しい時代に必要となる資質・能力の育成を踏まえ、わかる授業の創造 (2)確かな学力、基礎学力の定着を「学びあい」「友達のかかわり」という視点からアプローチ (3)子どもを主語に教育活動を語る教職員の育成 (4)GIGAスクール構想の推進及び情報モラル教育の充実	・誰でもかかわって認め合い、自分の思いを伝えあえる授業展開を心がけ実践した。 ・授業の中で友達と関わりながら学習を進めていると感じている児童や保護者が90%近くだが、否定的に受け止めている割合も10%近くいることから、授業改善の意識を高める必要がある。 ・校内研究、職員会議での児童理解の時間等、児童に寄り添い、子どもを主語に情報交換、共有をした。 ・GIGA端末を学習活動の中で有効的に活用していると感じた保護者が80%近く、授業参観や家庭学習でのGIGA端末活用を評価していただいた。 ・情報モラルについての指導計画を立てたので、今後実践していく。	・各教科領域における授業研究会に積極的に参加し、教員の授業改善を推進する。 ・学級担任における一次支援を充実させ、「みんなでよくなる」を意識しながら授業展開する。 ・個別学習支援が充実するように、人的配置の工夫をする。 ・情報モラル教育の指導計画を活用し、学習活動の中でより個別最適な学びと協働的な学びにつながるようGIGA端末を活用していく。 ・必要であればGIGA端末を家庭に持ち帰り、長期休業中などと同様、学びの継続としてGIGA端末を活用していく。

4	自ら主体的に課題意識をもって学校生活に関わる姿勢の育成	(1)他者を尊重する姿勢を育てるとともに個も尊重する (2)自ら目標を立て、最後までやりぬくための支援 (3)児童会活動、学年実行委員等による自主的活動の実践 (4)キャリア在り方生き方教育の推進	・児童会活動を中心に学級会での話し合いなどの場面で自分の考えをもちつつも、他者理解も促進させながら課題解決にあたった。 ・児童会スローガンの作成、スポーツフェスティバル、校外学習など、めあてをもってやりぬくための支援を継続的に行った。 ・日常的な学校生活の他に、いじめ防止標語コンクール、学校運営協議会参加等、自分たちで作る学校生活という面での意識化を図った。	・児童の活躍の場が保護者にも伝わる教育活動の展開にする。 ・いじめ防止標語コンクールのクラス代表の標語や児童会スローガンとともに、自分たちで決めた標語を意識しながら生活できる体制を構築する。 ・児童のどんな小さな成功でも見逃すことなく、認め、ともに喜び、自立への支援を継続していく。
5	健康な心と体を育成し、安全で安心な学校の構築	(1)基本的な生活習慣の定着とルール遵守の徹底(「しもひらま小のやくそく」の活用) (2)キラキラタイム、たてわり長縄等による運動習慣づくり (3)健康に生活するために「栄養・運動・睡眠」への意識向上 (4)緊急時に対応できる安全教育	・今年度より「しもひらま小のやくそく」として大まかなルールを提示し、児童は遵守することができた。 ・委員会主催のキラキラタイムやたてわり活動の長縄大会の実施により、運動する楽しさを味わうことができた。 ・健康な体づくりを心がけて安全に生活していると感じている児童は84%と、おおむね基本的な生活習慣が定着しているが、16%はそう感じていない。	・健康な体づくりを心がけて安全に生活することをさらに意識できる取組を各部会で考える。 ・引き続き、児童が主体的に取り組むキラキラタイムやたてわりを活用した長縄大会の実施により、運動する楽しさを味わわせる。 ・放課後の校庭開放について、児童とともに決めたルールを保護者に周知し、校庭を有効活用する。
6	学校、家庭、地域が相互に協力、連携できる体制づくりの確立	(1)学校説明会、学校報告会、入学説明会、授業参観や懇談会、学校評価公表、ホームページの活用 (2)コミュニティスクールとして「学び合い高め合いみんなでよくなる下平間」を合言葉に子ども・保護者・地域も含めみんなで学校を創り上げていく	・学校だより、学年だより、ホームページの公開等により学校の様子を発信することができた。 ・授業参観や学校公開日などの実施を通して、保護者に児童の学習の様子を見ていただくことができた。 ・気になることなどを担任や他の先生に相談できる児童が80%で昨年よりやや減ったものの、保護者は90%近くであることにより、学校をめぐる児童について相談できる環境が構築されている。 ・地域と連携して取り組む学習や地域人材の活用など、下平間や川崎への関心や愛着を高めた。	・専任の支援教育コーディネーターを置くことにより、児童からの相談体制を充実させる。 ・保護者からの相談には、引き続き担任、コーディネーター、管理職の面談を実施し、必要に応じ巡回カウンセラーや外部機関につなげていく。 ・コミュニティスクールとして地域とともに学校を創っていくことを明確化し、地域人材の活用や総合的な学習の時間の見直しを図る。 ・市制100周年に向けた取り組みも児童や地域とともに進めていく。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<ul style="list-style-type: none"> ・学校公開日に授業参観をしたが、先生方が熱心に授業されている様子がよくわかった。授業では、発表する児童の方をしっかり見て聞こうとする姿があり、学び合おうとする姿勢が感じられた。教室も和気あいあいとした雰囲気があり、学校全体が落ち着いている様子が伝わった。 ・GIGA端末の活用は目を見張るものがあるが、視覚情報が先になり聴覚情報の処理ができるようになるのが心配。地域とのかかわりの中でも、情報を伝えることはできても自分の思いを伝えることが難しいお子さんがいる。 ・縦割り活動をはじめとしたさまざまな活動を通して「みんなでよくなる」を実現しようとしている。この状況を続けていってほしい。 ・気になることなどを担任や他の先生に相談できる児童が80%で昨年よりやや減ったので、子どもとの信頼関係を築きポイントを上げてほしい。 ・不登校児童や保護者への対応もあり、先生方は忙しいと思うが、先生方がゆとりをもって授業準備ができるように体制を整えていただきたい。 ・教職員は下平間小学校が「働き甲斐のある職場」と見え、子どもたちは「楽しくて行きたくなる学校」と思えるよう長時間労働にならず、健康に留意して教育活動を行ってほしい。 ・HPに掲載するイラスト等に著作権の問題があるのならば、子どもの図工の作品など学校の様子が見えるものを使用してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年学級での教育活動、学級での係活動やたてわり活動などにおいて児童一人一人が役割を果たし、自己存在感や自己有用感を味わえるように進めてきた。 ・授業参観など児童の学校生活の様子を直接目にし、GIGAスクール構想の実現や児童同士のかかわりを大事にした授業展開などをある程度理解していただけた。 ・教職員に対し児童とのかかわりや合理的な配慮についての研修を実施し、学級担任をはじめ支援教育コーディネーターや巡回カウンセラーに児童、保護者から相談しやすい体制を構築し、丁寧に対応してきた。不登校や不登校傾向にある児童に対し、学校として保護者との面談を通して対策を提案したり、外部機関と連携しながら支援を進めたりできるよう努めた。 ・地域の人材を活用した学習展開も実現し、下平間への関心や愛着を深めた。 <p>＜次年度へ向けて＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権尊重教育を土台に、児童にとって居心地のよい学級・学年・学校となるよう、教職員と児童との良好な関係づくりに努める。また、教職員の時代に即した人権感覚もさらに磨いていく。 ・教員の授業力向上に向けて校内授業研究会の充実を図るとともに、他校の授業研究会に参加したり、小学校教育研究会主催の研修会に積極的に参加したりして、自己研鑽に努める。 ・専任の支援教育コーディネーターを配置し、児童とのかかわりを深め、児童や保護者の相談窓口として機能させる。 ・コミュニティスクールとして、地域とともに進めていく教育課程を目指し、人材活用や地域素材の発掘を進める。